

中東問題を観る眼

朝日カルチャーセンター・新宿教室

若林 啓史

講座の全体像

第1回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その1：ゾロアスター教

第2回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その2：ユダヤ教

第3回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その3：東方キリスト教

第4回 イスラームは偏狭な宗教？ 寛容な宗教？ 中東の多数宗教・イスラーム

第5回 中東は部族社会？ 中東の社会構造 その1

第6回 中東は宗派で分断されている？ 中東の社会構造 その2

第7回 中東は男尊女卑？ 中東とジェンダー

第8回 中東の国々はどこも産油国？ 石油問題と中東観のかたより

第9回 中東に民主主義は根付くのか？ 中東民衆の政治参加

第10回 イスラエルと湾岸アラブ諸国は手を結ぶのか？ 中東の新たな対立構造

第11回 日本外交における中東の重みは？ 中東外交の黄昏

第12回 なぜ日本の中東論文は英語で書かれるのか？ 戦後日本の中東研究

【中東地図】



第7回 中東は男尊女卑？

中東とジェンダー

2023年7月27日

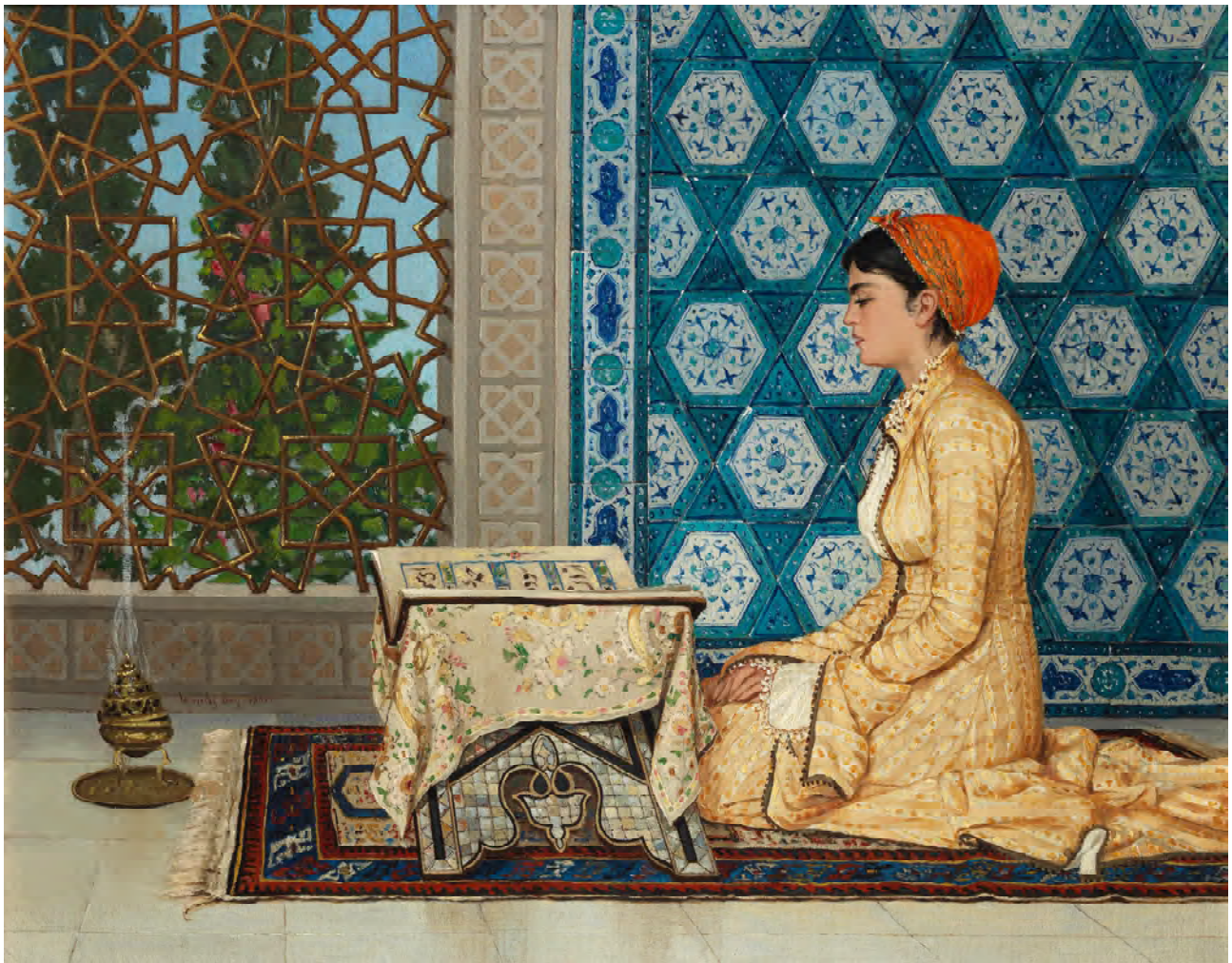


写真 オスマン・ハムディー・ベイ《読書する若い女》 1880年

オスマン・ハムディー・ベイ（1842-1910）は、オスマン帝国における本格的油彩画家の草分けとして知られる。また彼は1881年、帝室考古学博物館館長に就任、欧州の調査隊によって貴重な古代遺物が国外に流出することを防止しようと努力した。この作品は2019年、ロンドンで競売に付され、669万ポンドで落札された

1 中東における女性像

- 中東に関し、湾岸アラブ諸国やイラン、アフガンなどを例示して、「女性の教育や社会活動が抑制され、服装などの自由は認められず、これらは全てイスラームの教えが原因」と解説されることがあります。こうした見方は、どこまで実情を反映しているのでしょうか
- イスラーム世界における女性を保護するための社会規範が、外部の観察者によって、女性を抑圧する手段のように説明されるのは、なぜでしょうか
- 現代では、イランを含む多くの国で、女性は副大統領などの要職に就いています。政界のみならず、軍や学界など、各分野で顕著な業績を示す女性が増えています
- 欧米的な基準に一致するわけではありませんが、中東地域の社会も、他の地域と同様、女性を尊重し、その活躍に期待する点で、引けを取らないのです



写真 預言者ムハンマドの生母と養母 16世紀末の写本

預言者ムハンマドの父はアブドッラーといい、ムハンマドの誕生前に旅先で病没した。ムハンマドの生母アーミナ（上図緑色の衣服）は、西暦570年頃ムハンマドを産むと、当時の慣習に従って遊牧民の女性ハリーマ（上図右）に子供を預けた。ムハンマドは6歳の頃、生母のもとに戻ったが、しばらくしてアーミナも世を去り、孤児になった。『預言者の生涯』は、1388年頃成立したオスマン語によるムハンマドの伝記である。オスマン帝国スルターン・ムラト3世は、当代随一の書家・画家であったリュトフィー・アブドッラーに『預言者の生涯』の豪華写本製作を命じた。814枚の挿絵を含む写本は、次のスルターンの治世、1595年に完成した。ムハンマドやアーミナの顔は、ヴェールで被われて表現され、乳を飲む預言者からは霊気が立ち上っている

2 イスラームにおける女性観の基本

○中東、特にイスラームに従う人々の、女性観から考えてみましょう

○預言者ムハンマドは、「天国は母親の足元にある」と語ったと伝えられ、預言者の妻は「信徒の母」とあがめられました

○イスラーム以前のアラブには、誕生した女兒を親がひそかに生き埋めにする奇習がありました。これについてクルアーンは、「生き埋めにされた女兒は、『何の罪があって殺されたのか』と（アッラーから）訊ねられる」（「遮蔽の章」8-9節）と否定的に言及します

○預言者は、自らが孤児になって苦労した体験を背景として、女性や孤児に対する思いやりを示したと伝承されます。預言者の伝記には、ハディージャ、アーイシャら妻たち、娘ファティマなどの女性たちが登場し、時には政治的役割を果たしました



写真 ハンマーム（公衆浴場）のひとつ 1817年の写本

ハンマームでくつろぐ女性の群像は、欧州の画家たちが想像を逞しくして描いたものが少なからず残っているが、オスマン帝国の絵師による作品は極めて稀である。上図は、1799年から1817年までの日付がみられる作者不詳オスマン語写本の挿絵。欧州人が形成した背徳的なイメージとは異なり、ハンマームが公衆衛生を維持し、社交の場としても機能していた実態を写している

3 イスラームの女性観に対する批判

- イスラームの女性観を批判する人たちは、次のような指摘をします
- クルアーンには、「男は女の扶養者である。それは、アッラーが一方を他方から優先し、財物を支弁させ給うたから。」（「女たちの章」34節）とあり、イスラームの伝統的な解釈では男尊女卑の根拠としています。しかし、この章句にはいろいろな読み方があります。表面的に見ても、この章句の主眼は男性に扶養義務を負わせることで、アッラーはその目的において男性を優先したに過ぎず、何事も男性が優先される訳ではなさそうです
- イスラームを不道德な教えと非難する人は、一夫多妻の容認を例示します。クルアーンには「もし汝らが身寄りのない女兒を公正に扱えないと恐れるなら、合法的な女を二人、三人、四人でも娶るが良い。」（「女たちの章」3節）とあります。しかし、この章句には、解釈の難しい「身寄りのない女兒の扱い」という条件が付されているように見えます
- イスラーム法学者は、4人までの妻を娶ることを合法としています。しかし、実態においては、いつの時代でも、複数の妻を持つ人は例外的な存在でした
- また、クルアーンでは相続に関し、「男には、女二人分の取り分」（「女たちの章」11節）とあります。しかしイスラーム以前、他の文化圏と同様、女性の相続権は否定されていました。またイスラーム法では、男性に「婚資」支払いと扶養の義務があります



写真 パレスティナ解放人民戦線（PFLP）活動家ライラー・ハーリド 2009年撮影
ライラー・ハーリドは1944年、ハイファに生まれ、1948年に家族と共にレバノンに逃れて難民となった。彼女は15歳でアラブ・ナショナリズムを掲げる政治組織に加盟、1967年にジョージ・ハバシュがパレスティナ解放人民戦線を結成すると、これに参加した。1969年8月、ライラーはTWA機乗っ取り事件の実行犯の一人となり、その際撮影されたカラシニコフ自動小銃を抱える姿は、世界中に拡散した。1970年9月、彼女は新たな乗っ取り事件で英警察に逮捕されたが、翌月にはPFLPによる人質解放と引き替えに釈放された。1981年、ライラーはパレスティナ議会議員に選出、1993年にPFLP中央執行委員会委員、2005年にPFLP政治局員に就任するなど、政治活動が続けている

4 女性の衣装をめぐる意識

- 古代オリエントから前近代まで、この地域では男女が頭を被う風習が一般的で、その傾向は現代に続いています
- 中東起源の一神教であるユダヤ教やキリスト教において、宗教的・社会的理由からかぶりものの着用は一般的であり、イスラームもこれら伝統を踏襲しています
- 前近代の社会では、個人の保護は公権力に期待できず、自衛手段として、大切な人や物を邪悪な人物の眼から隠すことが先決でした
- 近代化に先んじた西洋では、女性の社会的地位の向上に、服装の改革が結びつけられました。女性の衣装は、その姿を隠すものから、見せるものに変化しました。旧式の服装は、女性を因習の世界に閉じ込めると否定されました
- 現代の中東では、女性の衣装に関する伝統的な考え方は、宗教と結びついており、いまだ根強いものがあります。一方で、近代化・西洋化の受容に熱心な人々がいます



写真 ウクライナを訪問したカッダーフィー大佐と女性警護官たち 2008年11月4日撮影
1980年、カッダーフィーは一切の公職から退いたが、国家制度を超越した権力を手中にしていた。この頃から、彼の身边は「革命女性挺身隊」と呼ばれる女性警護官によって警護されるようになった。カッダーフィーの指導理念を集約した『緑の書』では、女性の役割を家庭生活に限定していたため、このような組織を作った理由について取り沙汰されたが、真意の程は不明であった

5 「ヒジャーブ」を巡る論争

- 1979 年にイラン革命が成就したとき、指導者ホメイニーが真っ先に手に着けた改革の一つは、女性が髪と首を被う「ヒジャーブ」の義務化でした
- これに対し、欧米の政府・メディアは、イラン革命が女性から人権を剥奪したと、頭ごなしに非難しました
- ホメイニーは、「ヒジャーブを着用した女性は、あたかも貝殻の中の真珠のようである」「ヒジャーブは、女性の保護であり、規制ではない」と、伝統的価値観に従って女性を尊重する主張を展開しました
- ヒジャーブの問題を読み解くには、イスラームにおける規範のありかたについて考える必要があります
- イスラームでは、アッラーと個人が直接向き合う基本構造であり、他宗教のような聖職者や宗教組織の介在はありません。アッラーの言葉は、預言者に啓示されており、個人の行動が啓示に従っているか否かは、アッラーが「復活の日」に審判を下します
- イスラーム法学者の役割は、啓示の正しい解釈を探求し、人々に説き明かすことです
- こうしてみると、イランやアフガニスタンのように、公権力が宗教警察を通じ、個人のヒジャーブ着用を監督するのは、異例な取り組みに見受けられます。中東の多くの国では、信仰上の規範の遵守は、個人の宗教心に委ねられています



写真 アラブ首長国連邦初の女性戦闘機パイロット、マルヤム・アルマンスーリー少佐
2013年6月13日撮影

マンスーリー少佐（1979年生）は2007年、アラブ首長国連邦空軍が初めて養成した女性パイロット3名の一員であった。2014年9月22日夜、彼女はF-16戦闘機を操縦、シリア上空から「イスラーム国」武装勢力を爆撃した

6 女性の社会進出

- イスラーム世界において、政治・経済・文化・社会など諸分野への女性進出が遅れているように批判されています
- しかし、イスラームの長い歴史に照らし、女性の活動に脚光が当たっていた時期と、そうでない時期が混在しているのも事実です
- 預言者ムハンマドの妻ハディースは、有能な商人で、イエメンとシリアを結ぶ隊商を組織していました。ハディースは、隊商を指揮する代理人にムハンマドを選任し、後に結婚しました。ムハンマドの時代には、前述のように多数の女性が役割を果たしていました
- イブン・アビー・ターヒル・タイフル（819-893）は、『女流詞華集』という書物を編纂しました。その後も多くの文筆家が、女性の手になる詩文を後世に伝えています
- オスマン帝国最盛期のスルターン・スレイマーン大帝の治世（1520-1566）以後、ウクライナ出身で奴隷からスルターンの側室になったヒュッレム・スルターンら多くの女性が後宮から政治を左右し、「貴婦人の帝国」と呼ばれる時代を現出しました
- 第二次世界大戦後、中東の多くの国では、女性が各分野で活躍の場を拡げています
- サウジアラビアでは、2018年まで女性による自動車の運転は認められていませんでした。宗教上の理由と説明されることが多いですが、サウジアラビア独特の制度でした



写真 ローハーニー大統領とエブテカール環境問題担当副大統領 2017年7月3日撮影
 イラン革命の指導者ホメイニーは、もともと政治における女性の役割に懐疑的であったが、革命の進展の中で女性たちが示した目覚ましい活動を前に、考えを改めた。革命期の女性活動家の一人として頭角を現したのは、マアスーメ・エブテカール（1960年生）であった。エブテカールは、家族と共に6年間アメリカで暮らした。帰国後、政治活動に投じ、1979年11月、学生たちが米大使館を占拠して外交官を人質に取った時、占拠グループのスポークスパーソンを務めた。ハータミー政権とローハーニー政権において副大統領に任命され、イランの女性政治家の代表格となった

7 「ジェンダー論」の挑戦

- 20世紀に入ると、「ジェンダー論」が誕生し、発展しました。「ジェンダー論」は、性別に関わるアイデンティティーは、生物学的事実より、社会構造によって決定されると主張、「性差を除外した社会」の形成や、個人によるジェンダー選択の自由を目指しています
- ジェンダー論者は、諸宗教に含まれる男女の役割に関する教えを、社会構造の根幹を支える因習と排撃、先進諸国では成功を収めつつあります
- イスラーム世界における女性抑圧の批判は、しばしばジェンダー論の応用として表現されます。ジェンダー論者は、ヒジャーブの強制を、個人による選択を妨げると非難します。一方で、イスラーム教徒女性が、自発的にヒジャーブを着用することも認めません
- 「ジェンダー論」に対し、ローマ教皇は「男女の相違と本質的相互性を否定し、性差を除外した社会を説き、家庭の人間学的基盤を取り去ってしまう。」と反撃しています
- 日本の中東研究者には、「ジェンダー論」を掲げる人が増えていますが、このように深刻な思想的対決を踏まえて議論するのではなく、単に学界の流行に乗っているようです